

会 議 録

会議の名称及び会議の回	第3回飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会 スポーツ部会
開催日時	令和5年9月20日(水) 午後7時00分～8時45分
開催場所	飯田市役所3階 C311・312 会議室
出席委員氏名	別紙名簿
欠席委員氏名	三石委員、吉田委員
傍聴者	なし
出席事務局職員氏名	伊藤生涯学習・スポーツ課長、スポーツ振興 氏原係長、松原主事、北村主事、賜部活動地域移行支援コーディネーター
会議の概要	以下のとおり

1 開会の挨拶（牧原部会長）

- ・ 前回の会議の中で、具体的な内容について少しずつ進めていくということで会議を進行していただいている。本日も、段階的な進め方についてご検討をいただくような形になる。皆様方それぞれの立場で疑問に思われていること、経験上からのアドバイスやご意見を積極的に頂戴して、さらに具体的な検討ができるよう進めてまいりたい。

2 事務局より報告

- ・ 前回部会の協議内容3点について確認
 - ① 目指す姿と段階的な進め方について
 - ② 保護者や学校、指導者の皆さんへの理解の促進をどう進めていくか
 - ③ 指導者の確保や研修内容について

3 事務局より報告と提案

- ・ 校長会との連携し、拠点校の枠組みについての検討
- ・ 学校教職員の兼職兼業、地域指導者の意向調査を実施
- ・ 拠点校による段階的な進め方についての説明

一つの学校だけで部活動を維持することができないほど少子化が進み、学校によっては部活動がなくなってきている。拠点校にすることで、生徒のニーズにできるだけ答えていくことが可能になっていく。段階的にクラブへ移行していくためにできるだけ近い範囲で拠点校を進めていく。
- ・ Aエリア「緑ヶ丘中、竜峡中、竜東中、遠山中」、Bエリア「高陵中、飯田東中、飯田西中」Cエリア「旭ヶ丘中、鼎中」。さらに全市型。拠点校にない競技や専門性の高い活動として出張型や体験講座、競技力向上を置く。全市型1つと3つのエリアで進めていこうと考えている。
- ・ 拠点校になると、その学校の先生が負担増になるので、そこには部活動指導員を配置していきたいと考えている。できるだけ休日の部活動は、学校の先生ではなくて地域の指導者にみていただく。あるいは学校の先生の中でも兼職兼業の先生の指導とする。
- ・ 顧問の6割が教員経験や指導経験のない学校職員が当たっていること。これらが解消でき、より専門性の高い指導が可能になる。
- ・ 部活動指導員は、責任も伴うがボランティアではなく報酬がある。そのような形でしっかりした指導者の確保を目指したい。さらに専門性を高めるための研修を義務付けることも考えている。
- ・ 拠点校を進める上で前提となる考え方としては、学校部活動を存続させるためのものではなく、地域クラブへ移行していくための段階的な措置であるということ。中体連出場のためだけの数合わせでもない。今まで合同部活動として人数が足りない中学校同士が集まっていたものを、拠点校というしくみにより、将来にわたって選択肢を広げた上で、持続可能なものにしていく。
- ・ 地域クラブの運営については、各地区の実情に応じた形で考えていくこととし、中学生の活動支

える環境整備に留まらず地域全体の文化芸術スポーツ活動を充実していくものにしていきたい。

- ・これを進める上で、課題や心配されることを本日協議していただきたい。
- ・1つ目、指導者の確保と資質をどう担保していくかということ。学校職員の兼職兼業も含めた指導者の洗い出しとリストの作成。研修システムをどう構築していくか。
- ・2つ目、拠点校部活動からクラブへ移行していく際の運営主体をどうしていくか。各競技団体やスポーツ協会あるいは総合型地域スポーツクラブと協議を進めながら、それぞれがどう関わられるかということと、運営主体となり得るのか、なり得ないとするとどこに課題があるのか。可能性を一緒に探っていきたい。
- ・3つ目、生徒の参加や送迎をどうするか。先週の県の協議会でも1番問題になっていた。保護者としてはここが一番気になるだろう。受益者負担を原則に困窮家庭への支援や公共バス利用の検討をしていく必要がある。本日は、この3点について協議していただきたい。
- ・指導者については、文化・芸術スポーツ活動を通じて中学生の健全育成に寄与する志がある方で最低限飯田市の定める「指導者の心得6カ条」を遵守していただける方。承認願いを提出いただき、この連携協議会が承認することを考えている。承認された方が指導者になると同時に飯田市で定める研修会へ参加してもらう。
- ・研修会の内容について検討いただきたい。救命措置だとか安全・安心に関わって、ハラスメント、スポーツ障害とその予防等のことを考えている。
- ・運営主体をどうしていくか。各競技団体、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブと協議を進めていきたいが、課題や別の方策について協議していただきたい。
- ・参加費について、スポーツ安全保険に加入してもらう。これは自己負担になる。指導者への謝金だとか、活動に必要な経費のための会費等は原則的には受益者負担になっていくだろうと考えている。昨日の県の協議会ではスポーツが2800円程度。文化芸術が、2200円程度。参考にしたい。
- ・送迎について、基本的には保護者の送迎もしくは自力での移動を考えている。保護者やクラブから許可されたものは自転車での移動を可としていったらどうか。通えない場所もあるので、そこには公共交通機関の運用を考えていきたい。公共交通機関の可能性について検討を進めていくが、お知恵をいただきたい。

4 全体協議

(委員)

- ・拠点校での活動のスタートはいつからか。

(委員)

- ・基本的に拠点校の子供たちが違う地域の拠点校に行くことはないのか。

(事務局)

- ・活動のスタートについては、校長会と相談する。どこの部活動がどこの学校になるのかということ具体的にしていく。できるところは、6年度からスタートしていきたいと考えている。来年度スタートできそうなのは、女子ソフトボール、旭ヶ丘と鼎の男子バレーボール部。できるところから進め、どんな課題があるのかを見ながら、7年度にはできるだけ全種目を拠点校にしていきたい。
- ・生徒が、別の拠点校へ行けるかについては、自由に動けるのが理想だが、当面はこのエリアの中で考えていく。完全にクラブになった時は、行き来が自由になると考えているが、これも校長会とともに詰めていきたい。

(部会長)

- ・エリアモデルの提案で人数的にはバランスが良いということだが、遠山中は難しいところもある。3つの拠点と全市型のを想定しているが、一斉にということはまだ無理。できるところから来年度スタートさせていくということではどうか。

(事務局)

- ・全てこのエリアの中で完結することは難しい。女子ソフトボール部は旭ヶ丘中と高陵中しかない。Aエリアにはない。Aエリアの生徒はどちらかに行けるような形で考えている。種目毎に柔軟に考え、エリアを超えるという可能性もある。文化系の合唱も旭ヶ丘中と緑ヶ丘中しかない。

(部会長)

- ・拠点校のスタート時期や方法、内容等についてはよろしいか。
- ・次の段階的に進めていく上での課題、心配されること、その解決の方向性というところで、まず1つめの地域クラブの指導者の決定までの手順について、いかがか。

(委員)

- ・指導者の心得6カ条とは、どのようなものか。

(事務局)

- ・1つ目「お互いを認め合える人を育てます」、2つ目「プレイヤー自身が考えることを尊重します」、3つ目「勝敗よりも プロセスを重視します」、4つ目「怪我やバーンアウト、燃えつきから守ります」、5つ目「指導のあり方を学び続けます」、6つ目「生涯スポーツを楽しめる大人に育みます」このことを遵守していただける方に提出していただいて、この連携協議会で承認してもらう。研修会への参加もしていただく。

(委員)

- ・私のクラブでも指導いただく期間について、指導者ときちんとした契約を結ぶようにした。その理由は、高校部活動の外部指導者の場合には、校長と契約書を交わしている。また、契約書を公開した。こうした形式を取っておかないと、相応しくないと思われる指導者であっても、いつまで指導をするかということが指導者本人の状況次第になってしまうとまずい。今の6カ条のようなものを書いて、更新は1年ごとで委嘱状交付式をやっている。ある程度、詳しく書いておいた方が良い。

(委員)

- ・必要だと思うが、契約を打ち切るときの基準は誰が決めるのか。

(委員)

- ・クラブ全体の運営については理事会で判断、決定するとしている。当然、暴言や暴力については、即罷免という条項も作っている。

(委員)

- ・コーチだけではなくて、スポーツトレーナーが今は必要かと思う。試合の戦略とかそういう技術的なことではなく、基本的な体力作りやメンテナンスはトレーナーが必要。ぜひトレーナーもお願いしたい。

(委員)

- ・どこが主体かによってレベルが違う。地域が主体になっていくともっと柔らかくしないとなかなか難しい。スポーツ団体だとそれなりのモチベーションでできる。段階によって違うと思う。
- ・拠点校エリアモデルは大事なことだと思う。中学校のエリアを盛り上げていくと子供中心になっていく活動になるので期待がある。子供たちがそこに参加できるようにすることが1番大事。そこに指導者を派遣していくということになると思う。

(委員)

- ・私もエリアモデル賛成である。休日はどれぐらいから始めるか。

- ・指導者が決定されるということか。

- ・例えばクラブチームで言うと今、東・西中が1つになっている。指導者は、監督1人だが、高陵中にも1つのチームがある。どちらの指導者が主なのかは、おそらく問題が出てくる。最終的にそのチームの監督を誰がどのように決めるのか。

(事務局)

- ・拠点校だからといって必ずしも1つになることはない。3校であれば、3チーム出られる。これから校長会と学校の顧問同士でこのエリアにはどの種目を置くかということをお話し合ってもらおう。例え

ば最初は東と西で1チーム、高陵中で1チームっていうような形もあり得るが、休日は一緒に練習や試合をすることを繰り返しながら1つになっていけばいいと思っている。そのことも校長会で詰めていきたい。競技毎の専門委員の方に聞いてもらおうと、この拠点校に対して非常に前向きなのは、サッカーやバスケット。人数が多い種目はいい。ただ、野球は、問題が起きることを懸念している。そこは丁寧に説明しながら進めていく。

(委員)

- ・すでにクラブチームが指導しているところは、その方に研修を受けていただきながら、受けていただく。研修を受けられない場合は、次の方を探すというスタートになりそう。

(事務局)

- ・今の話の中で足元を見ていると形を作るべきという考え方もある。そうは言っても、そこに行った子供たちが悲しい思いをするなら指導者を整えてできるところからやっていく。どの形がいいか本当にわからない。そのようなことを含めているんなお考えをお聞かせいただきたい。手探りでいろんなことを試しながら、改善をしながらやっていくことになる。10年後にちゃんとした最終形になっているのか、またその時の状況に応じて変わっていくような取組になると思っている。まずは形から入って悲しい思いをさせる前にちゃんと仕組みを考えた方がいいのか、その辺りはいろんなお考えあると思う。私たちも悩んでいる。

(委員)

- ・チームを作るためのものではなく、子供たちの活動の場を作るということを念頭において、この3つの地域エリアで合同練習をして、そこから色んなチームを作る。チームを1つにするか2つにするかという話し合いもしていけば、チームとしての覚悟ができると思う。
- ・だから、最初からクラブを作るという発想をフラットにして、生活環境の練習場を作っていく。みんなで遊び場を作って、そこからスタートしようということを基本にスタートしていったらいい。今、中学生もクラブ登録ができるので、もう少し技術を高めたいとなればもっと高い授業料払ってクラブに行けばいい。そういう環境をやっぱり作るための第1歩である。

(委員)

- ・緩やかに移行するためにエリアを考えているのかなと思う。実際には、休日に各校で部活動を継続しているので実際には足りないところがある。休日に通いやすいエリアの中で一緒に練習する。来年度新しいメンバーが入ってきて、潤沢になれば別れようかっていうことも、地域に移行していくための1つの手段かなと思って捉えている。子供たちの選択の中には、例えば休日参加したいっていう思いの生徒もいるし、平日だけ出ますという生徒がいてもいい。部活動ではないので、「私は参加しません。」という子も出てくるだろう。子供たちが選択していく。試行錯誤だが、そんなイメージと捉えている。

(委員)

- ・拠点校部活動について賛成。課題としてチームを組んだ時に新たなユニフォーム問題がある。今までは学校の名前を背負っているが、合同になったことによって変わってくる。

(委員)

- ・一応県大会まではバラバラのユニフォームで良いという承認は出ている。ただ、それ以上は認めない。クラブになってしまえば、クラブの名前となる。

(委員)

- ・クラブに移行していくということは、来年度の4月は、まだ学校の3校の中で考えるということか。学校で決めてもらって、だんだんとそのクラブになるようにしていけばいい。

(事務局)

- ・4月からクラブになるわけではない。休日だけである。
- ・休日だけ部活動ではなくなると、平日の指導と休日の指導が違ってくる 時期がしばらく続く可能性があるということ。ややこしいことになる。

(委員)

- ・指導者はいつ決めるのか。
- ・クラブになった時のクラブの運営次第。探す前に学校と一緒に話した方がいいのではないかな。そこは学校の意向を無視して、土日だけクラブでやっていいというわけにもいかないと思う。
- ・1年間というのは、4月から3月でいいのかな。

(事務局)

- ・今年度中に、できるところから決めたい。

(委員)

- ・すでにクラブチームで参加している子は、クラブチームで土日も活動すればよいと思う。
- ・ダブっている子たちもいる。その子たちは、平日部活に行き、土日はクラブチームに行ければ、先ほどのユニフォームの問題とかが現実的だと思う。

(事務局)

- ・少なくとも中学生期に自分がいろんなことを選択できることを、平日の部活とは別に土日に作っていきましょうということを確認をしたい。部活をやってない子が、休みには野球をみんなとやりたいという子が行ってもいい。そういう場所を作ってくってというイメージで良いかな。当然そこは、学校との調整が必要。最初、顧問の先生を中心に拠点を指導いただきながらとなるだろう。ある程度ご理解をいただいた指導者の方がいれば、だんだん入って行っていただく。それを繰り返しながら、将来的にはクラブチーム化ができていくイメージである。

(部会長)

- ・それでは、地域クラブの指導者決定手順、指導者研修の実施の課題について、ご意見はいかがか。先ほどスポーツトレーナーの配置も重要だというお話、大切なお話をいただいた。指導者の1年契約の関係の意見もいただいた。他にいかがか。

(委員)

- ・この指導者研修のテーマは大事だと思うが、指導者の6箇条を重視していただける方に承認を出すということなので、前提としては、6箇条の考え方とか、アスリートファースト、スチューデントファーストという考え方を、再度この研修の中で確認していくことが大事。
- ・この取り組みの中で、子供に対してのビジョンをもう一度確認するような場としても、研修の場は大事。例えば、兼職兼業届として学校の先生方も参加されると考えると、やはり従来の部活のイメージで活動される方もいると思う。部活動ではないという事をご理解いただくことは大事。個別の研修テーマとは別に、スタートの時点でそこを再度ご理解いただく。もう1つは、指導者同士の情報交換の場としての研修も大事となる。私も、こういう機会をいただいているいろんな方とお話すると、今までの自分の指導感とは違うものを得られることがある。受け身の研修よりは情報交換をする研修も必要。

(委員)

- ・子供たちにアンケートを取った時に、他者との考え方の違いについての不安が大きかった。実際に平日と休日で違う指導がされてきていることへの不安があるという結果が出た。先生方も含めて、指導者と情報交換する機会、研修とは少し違うかもしれないが、それも入れていただくといい。

(部会長)

- ・クラブ指導者の決定までの手順、指導者研修の実施、この点についてよろしいか。

(委員)

- ・現在いろいろなスポーツに関わる機会として全市型スポーツクラブもあるけれど、やはり指導者の質は高めたい。各クラブの目的や理念、レベルはそれぞれ違うので、市が主導してやることに不安に思う。
- ・研修を受けてもスポーツ技術だけでなく人間性を含めて指導することができるのか。一人ひとりの子どもを我が子のように見ることが出来るのか。研修を受けたからと言って、次の日からできるの

かということ難しい。自分も研修を受けても、そういう質にはたどり着くことはなかなかできない。本当に楽しめるスポーツを求める指導者なのか、競技性を強くやるのかで変わってくる。本当に難しいと思う。

(部会長)

・指導者登録承認、研修会の内容等々についてご検討いただきたい。

(委員)

・何のために指導をしてもらうのかということを確認にしてその後に研修に移ると思う。私のクラブでは、委嘱時に毎年目的を確認する。初めは指導者が揃わないかもしれないので、学校の先生の指導者が必要になる。目指す姿や目的をきちんと明示することが大事。一生涯そのスポーツに親しんでほしいということを目的にいれている。中学校3年間でやめてしまうような子供をつくらぬよう、まずは謳っていくしかない。

(部会長)

・その辺を明確にしておく必要がある。それでは、2つ目の柱の事務局も難しいと言っておりました運営主体をどうしていくか。拠点校クラブへと移行していく際の運営主体をどうしていくか。地域クラブの運営については、各地区の実情に応じた形を考えていくようにし、中学生の活動を支える環境整備にとどまらず、地域全体の文化芸術スポーツ活動を充実させていく取り組みをしたい。現時点では、各競技団体、スポーツ協会、総務、また地域スポーツクラブ等との協議を進め、可能性を探りたいと考えています。どうでしょうか。

(委員)

・国は、運営主体のモデルを7つ出しているが、それを見て参考にしたい方がいい。市町村主体型が3つある。4、5、6番目が地域スポーツ、スポーツ協会とか民間業者が主体となるとあるが、まずは部活と並行してやってくるので、市町村主体でいい形を出してもらるのが1番いい。

(委員)

・スポーツ少年団の経験もあるが、組織の事務局に全部運営を任せられる。実は羽場文化スポーツクラブは地域総合スポーツクラブだが、仕事を持っている人間で全てやっている。会議は、平日の働いている時間内にあり、出席が全くできない。他の町村は仕事の一環として会議に出ている。だから、それを考えると、スタートは市の方でやってもらるのが1番と思う。

・他の協会で言うと、指導者育成のための研修等はあつたりするが、飯田市でこうやって研修会を企画して認定制度を持つのであれば、他のスポーツクラブに所属してわざわざ郡外まで出ていく必要がない。指導者の負担をできるだけ減らすとなると、地元でそういった研修を受けられる体制をとってもらった方が、指導者のなり手も増えるのでは。

(事務局) ※運営主体の例示資料配布

・可能性があるのは、総合型地域スポーツクラブかスポーツ協会、競技団体ではないか。もちろん市教委が関わらないってことはあり得ない。それぞれの団体のところがどういう課題があつてできないのか。例えば、仕事と掛け持ちなので注力できないとなれば、そこにコーディネーターのような人がいれば可能となるのか。課題はどこにあつて、その課題を解決するために、何が必要かを議論していただけると、方法も見えると思う。

(部会長)

・実情もお話いただきながら、地域で活動していくには、市の方でもっとこういうことやってくると、もっとうちらも活動しやすいということも含めてご意見いただければありがたい。

(委員)

・スポーツ推進という立場でここに参加している。高陵わくわくクラブで事務局も務めさせていただいている。設立から10数年。設立当時は、中学校の中に事務局があつて教頭先生が事務局を務めておりしばらく続いた。話し合いの中で、中学校から事務局を出すということで、わくわくで

引き取った。その頃までは中学校の社会体育がメインであった。収入源は、1人100円の会費。上郷のスポーツクラブが集まって作った団体で、各クラブは自分たちで活動をしていた。わくわくクラブの会費収入源は、発足当時は会費50円で1000人くらいの会員数。社会体育が中心だったが社会体育が禁止になった時点で中学校が全員抜けて会員数が3分の1くらいになった。スポーツ少年団だった小学校クラブも1回整理をした。当時50円だった会費を数年前に100円にさせていただいたが、100円を出す意味がないというご意見をいただいた。当時の40クラブが、現在は15クラブになっている。ほとんどが大人の団体で自分たちの趣味でスポーツをされている皆さんである。

- ・形だけ残っている状況で、年に1回総会をする以外は何もしていない。それでも何かできるかなとは思っている。施設を持っていて、クラブマネージャーがいてというのが、本来の総合型。事務局と会計の2人で事務局は回している。事務局が私の自宅という現状。結局、活動もできていない。お金や人がつかないと素晴らしい理念を掲げていても、維持するのは難しい。育った子たちが一度出て、帰ってきて指導者になるとか、スポーツや文化を一生楽しめる環境を作ろうという理念はよいが、だんだん衰退している。期待されている部分もある。

(委員)

- ・少年団に長年ずっと関わってきたが、県下でもスポーツ協会に所属して事務を全て自分たちでやっているのはうちだけ。スポーツ協会の方にやってもらっているが、他は市町村教育委員会とかで持っている。平日、会議が4時から。必ず5時に終わる。自分は仕事を休んで会議に出席しているが、市町村の担当者は普通に業務で来るという状況。自分たちはその時間を割いて事務をやるのは難しい。それぞれのクラブが自立を求められるが、仕事をしながら運営していくのは難しく、継続性の課題は大きい。

(部会長)

- ・やっぱりスタート時点では、教育委員会の力が欲しいというお話が出ている。その辺のところでは他の立場の方でいいですが、何か要望ないですか。

(委員)

- ・市が統括になっている体制が1番良く、みんなが納得して進める。
- ・先生や指導者が保険に入れたりしていることも支援をしているんなことをまとめていく組織を作った方が良い。登録や保険等事務的な能力を発揮するような人材も必要。そういう人材がやっぱりいてくれるような組織にしたい。指導するだけではなくて。

(部会長)

- ・ありがとうございます。各競技団体は指導の部分はやるぞと云ってくださっている。その代わりに、事務的な部分についてはどこか支援してもらえるものが要だということ。事務局スタッフが運営して指導者が指導にだけに関わるという体制ができれば良いという事が理想。運営事務局に市が関わってもらえれば良い。運営ができて総合型の方に行ければ良い。一体どのぐらいの期間の助走が必要かってことなのかだ。

(委員)

- ・私は、南信州地区でやっているから、飯田市になると当時は減免も受けられなかった。この拠点校の3地区に、1個ずつ総合型がある。高陵、羽場、南信州は鼎。うまく育ててもらえれば良い。
- ・保険加入は、学校の場合は顧問が集金してスポーツ安全保険に加入しているが、この拠点校を土日の活動と一緒にしてくれれば、別の団体が保険に加入することは可能。保険に加入した活動だということにできればいい。土日、学校の拠点校での活動、別の日にはスポーツクラブでの活動として、1人800円払えば多様な活動ができるという加入の仕方にすればよい。集金もできる。市町村が運営事務局となって、将来的には2団体を創設していくところに向かってほしい。

最初のスタートの時点の立ち上げの時から軌道に乗るまでは、市教委の方からの協力をしてもらってやっていくが、少しずつ減らしながら自立も考えていくとよい。今言った保険管理や集金の業務を引き受けることは可能。

(部会長)

- ・さすが。運営もすでにされているから、そういうことがわかっているらしい。

(委員)

- ・やはり、運営主体は市の方でやっていただいた方がいいと思う。立ち上がってすぐに崩壊してしまいそう。いろんな知恵をまとめていくのは市でやっていていただきたい。飯田下伊那に広がっていくことも考えると、飯田市がリードしてほしい。

(部会長)

- ・ありがとうございます。送迎、参加費のことについては、県でも問題にしている。今すぐに事務局の方で答えられる感じではないので、これについては並行して考えていく。

(委員)

- ・例えば送迎は、高校の部活動は毎日ではないがマイクロバスでやっている。すぐできる。
- ・高校がバスを持っていて、顧問が運転している。必要に迫られてバスで移動している。
- ・運転してくれる人はいる。6、70代の人。

(部会長)

- ・千曲市では、公共のバスを出している。

(委員)

- ・現在の人数バランスが崩れてくる可能性の見通しがあるのか。

(事務局)

- ・多少の変動はあると思うがどこも間違いなく減っていくので、部活動改革は待ったなし。

(部会長)

- ・ありがとうございます。今日は本当たくさんご意見いただけてよかった。それでは協議の方は以上で終わらせていただく。貴重なご意見ありがとうございました。

(事務局)

- ・それでは、アドバイザー熊谷先生の方からお願いしたい。

(熊谷アドバイザーより)

- ・運営自体のことについては、体制も色々あると思うので、様々なご意見を基に考えていくべきと思っている。3つお話ししたい。
- ・1つ目は、PTAの方と話す機会があって、今の6年生が、ある種目のコーチから「6年生が中3になる時に中体連の大会がなくなる」と聞いたが本当かと言われたが、僕は知りませんと話した。バスケットとかサッカーみたいに協会主催の大会ができるのかもしれないねという回答をした。ひとまず中体連のホームページを見てみるといいのではないかとお伝えした。その監督さんがどういう意図で言ったか、それとも聞き間違いかもしれない。今、変革期で抱え込もうとして、中体連がなくなるからクラブにおいてという悪い考え方もあるかなと思ってしまう。正しい情報が今どこにあるのか。中体連とか協会とか、または飯田市が継続して、保護者、子供たちに伝える機会があると良いと思う。保護者、子供に大事な理念は伝わりにくいのに、とんでもないことが簡単に発信されてしまうこともあるということを感じた。
- ・2つ目。冒頭の室伏長官の話にあった自分から進んでの活動ということ。昨日、飯田市公民館で開催しているふらっと会議に出てきた。立命館大学のゼミ生と教授が来ていて、バレー部の部長さんと話した。立命館大学は自主活動でやっているそうで、監督やヘッドコーチはいるが、生徒、学生たちの主体活動でやっている。高校まで監督がぐいぐいやってきた学生と、そうでない学生に2分される。教えられてきた学生は最初は面食らうが、だんだん順応していった自主的な活動にもなっていくという話を聞いた。中学の部活はどうかと聞かれた。中学の部活動も、ガイ

ドラインにありましたけど、主体的で自主的な活動であるべきだと。飯田市が目指している主体的な活動であるべきことは間違いないが、加熱化していると言ったら、皆さんが笑っていた。指導者は上からの人ではなくて、伴走者とかファシリテーターのような、存在であることを都度確認していかないと暴走することもあり得るのかなと思う。飯田が目指す、まず目的に立ち返るといことが大事だと思い、長官の話と関係させながら聞いた。

- ・最後に、拠点校の話。段階的な措置だということであるが、夏の大会はこのチームでとか、新人戦は人が入れ替わるからこのチームでとか、きっと入れ替わると思う。中体連の基準はわからない。クラブチームで今年出るって言った時に、ある競技はオッケーだったけど、ある競技がダメだったとかっていうことを聞いて、この基準が心配である。ラグビー協会の関係で携わったが、今年、北信地域のラグビーのチームが拠点校でやることとなり、私立中の先生が顧問でまとめてくれて話が進んだと。中学校でするという考えもありますし、ラグビー協会としても1年間ワンチームでやりますということが基準になってくる。よく説明して始まったが、6月の大会が終わったら辞める人が出てきた。拠点校でやろうと思ってワンチームで説明しても、誰かの考えで割れていくことがあると思った。この拠点校はいつまでだとか、今の1年生が中3になる時は実はもう1回見直して話し合うとか、その見通しやスケジュールをはっきりさせておかないと、子供たちが見通しを持って参加できないのかなと思う。
- ・長野県では中学生の文化活動、スポーツ活動の指針を見直すという方法もあるが、今年度中に策定するよう進めているがスケジュールは明確に示されていない。活動指針を改定するのは今年度中。地域移行の推進方針、ガイドラインのものも今年度中に策定してお示しする。そこのスケジュールも明確になっていない。申し訳ないがそこまでしかお伝えできない。

(事務局)

- ・ありがとうございました。県の方の動き、ガイドラインも示されてくるので、これまでいただいてきたご意見をまとめて、飯田市として方向性をまとめていく予定である。
- ・一旦、ここで、このスポーツ部会を終わりにさせていただき11月16日に本部会を開催する。全ての委員のみなさんにご出席いただく会議ではないので、今後は随時委員の全ての皆さんにも情報共有をさせていただく。
- ・最終、2月の中旬ぐらいには計画案としてブラッシュアップしたものをお示ししたい。最終3月末には、今後の方向性を示していく。
- ・また、引き続き競技団体の皆さんをはじめとする皆さんにも、色々ご意見も頂戴する機会があると思うのでご協力いただきたい。
- ・次回本部会へ出席される委員の皆さんには通知をする。

(部会長)

- ・担当して、理念を考えているワクワクする時と、具体的に進めるとなると、なかなか難しい部分があるということをつくづく感じている。今までにないものを作り出していくことの難しさ。皆さんのお力をお借りしながら、飯田市としてふさわしいものをぜひとも一緒に作っていただければありがたいと思っている。貴重なご意見をたくさんいただき感謝申し上げます。ありがとうございました。